第６期ジュニア・アカデメイア
【若者の緊急提言】コロナ禍で見えた日本の課題と解決策
「不登校対策」グループ サマリー

研究テーマ：誰一人取り残さない不登校対策のあり方
～「バーチャル学校」が繋ぐ学びの機会～

１．解決すべき課題

・不登校児童・生徒たちに十分な学びの機会が保障されておらず、教育から取り残され、その後の人生で多くの不利益を被る（進学や就職等）。
・「不登校＝解決すべき問題」と捉えるのではなく、不登校であっても個々人の自己実現につながる「学びの機会」を平等に提供する。

２．問題意識

・2020 年度の不登校の小中学生は、前年度から約 1 万 5000 人近く増え、過去最多の 19 万 6127 人（過去 10 年：小学生:3 倍、中学生:1.4 倍）。
・コロナ禍により学校に行く機会が減り、子供たちの生活リズムが乱れる中、不登校問題が改めて明らかに。
・不登校経験者の高校中退率や、就業後の所得の低さも指摘される。

３．現在みられる課題解決策とその問題点

〇「不登校特例校」（全国 17 校：私立 9 校、公立 8 校）

・不登校児童・生徒の実態に配慮した少人数指導や習熟度別指導を行う学校。
・教員一人当たりの生徒数が少ないことや、多種多様な設備投資の必要性から、設置には財政負担が重く、2021 年 4 月時点での設置数は全国でわずか 17 校（東京都内に集中。私立の場合は学費が高額）。

〇「出席扱い制度」

・不登校児童・生徒が、教育支援センターやその他の民間施設等の学校以外の施設で授業を受けた場合に、一定要件を満たせば在籍している学校の出席扱いにできる制度。利用は拡大しているが、「学びの機会」の十分な提供とは言い難い。

４．グループとして考える課題解決策

「オンライン空間の学校＝『バーチャル学校』の設立」

○AI を活用した教材で一人一人に個別最適化された学びを提供。
○オンラインでの社会科見学や国際交流等、新たなプログラムも開発。
○心のケア（カウンセリング）にもオンラインの利点（どこでもアクセス可能、精神的にオンラインの方が受けやすい等）がある。
○設置者は都道府県単位（教育委員会主体）
⇒学校に行くこと自体にハードルを感じる不登校の子どもたちが、好きな場所で授業を受け、学校生活を送ることができる！
⇒居住地や家庭の経済状況に左右されない「学びの機会」を平等に提供できる！
⇒不登校でも学びから取り残されない → 将来の自己実現が可能。

・既に「GIGA スクール構想」で、全国の小中学校において一人一台の学習端末の整備が完了。

GIGA スクール構想：全国の児童・生徒に一人一台のコンピューターと高速通信ネットワークを整備する文部科学省の取り組み。子供たち一人一人に個別最適化され、創造性を育成する ICT 環境の実現に向け、2019 年（令和元年）に開始された。

・校舎や教室等が不要のため、財政上の問題がなく多く設置できる。

ただし、
・小学生は最初から「バーチャル学校」に入学することは不可。転入学に限定。他者との関わりを通じた協業など、対面で学ぶ経験が、成長過程で重要になるため。

５．残された課題

・不登校児童・生徒の増加を誘発する可能性はあるが、不登校をそもそも悪いものとして捉えず、個々人の自己実現につながる「学びの機会」の選択肢の増加と捉える。
・「バーチャル学校」であれば、現在不登校の子どもたちが実際に「通い始める」のかは検証が必要。